

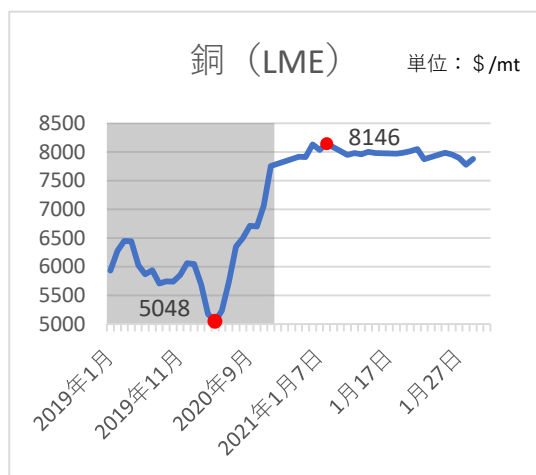
非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

銅

【海外】

1. 価格推移



- 米新政権の経済対策による景気回復期待によって、1月8日は2013年2月以来の高値となる\$8,146
- 月末は株式市場下落の景気懸念とドル高で小幅に下落

(2019年1月～2020年12月の値は月平均)

2. 需給動向

国際銅研究会(ICSIG)の1月20日発表によると、2020年1～10月の世界の銅需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～10月の世界の銅需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1～10月 実績	2019年1～10月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	16,885	16,948	-0.4%	20,223
地金生産	20,291	19,986	+1.5%	24,434
地金消費	20,773	20,340	+2.1%	24,486
需給バランス	-482	-354		-52

(うち、中国の銅需給実績)

	2020年1～10月 実績	2019年1～10月 実績	増減率
鉱石生産	1,414	1,376	+2.8%
地金生産	8,326	8,114	+2.6%
地金消費	12,006	10,523	+14.1%

(出典) 国際銅研究会

3. 供給障害

◆ MMG、道路封鎖解除でラス・バンバス銅鉱山の精鉱輸送を再開(ペルー)

中国五鉱集団子会社のMMG(豪)は1月10日、ペルーのベリレ地区住民によって実施されていた道路封鎖が解除されたことから、ラス・バンバス銅鉱山(ペルー)の精鉱輸送を再開することを発表した。MMGは地元住民との合意内容を発表していないが、同地区を経済・環境優先エリアと指定し、インフラ工事を毎年行うことなどが合意されたとみられている。今回の道路封鎖などによりラス・バンバス銅鉱山では、銅精鉱の在庫が9月末日の4.7万tから12月末日は6.5万tに増加。輸送再開により、同社はこれらの在庫の出荷も進めていくとしている。同鉱山ではCOVID-19感染拡大による操業停止を受けて2020年4月に年間の生産計画目標を撤回。当初は35~37万tとしていたが、新たな目標は公表しなかった。2019年は年間38万tの銅精鉱を生産している。(協会注:12月に行った不可抗力宣言の解除についてはその後の委細不明。)

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

1月4日	1月6日	1月8日	1月14日
840	870	890	870

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2020年12月分=令和2年12月分)

	2020年12月	2020年11月比	2019年12月比
生産	134,745 t	+4.4%	+4.6%
出荷	124,346 t	-2.1%	+3.1%
在庫	110,402 t	+10.7%	+12.4%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が4か月ぶりの増加、前年同月比は7か月連続の増加となった。出荷は前月比が3か月連続の減少、前年同月比は6か月連続の増加。内訳は内販が前月比4.9%減、前年同月比9.7%減の6.9万tで、それぞれ4か月ぶりの減少と18か月連続の減少。輸出は前月比1.7%増、前年同月比25.5%増の5.5万tで、それぞれ3か月ぶりの増加と13か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年同月比12.8%減の4.3万tで15か月連続の減少、伸銅品向けは1.7%減の2.5万tで21か月連続の減少。在庫は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は12か月連続の増加となった。

3. 需要部門別動向

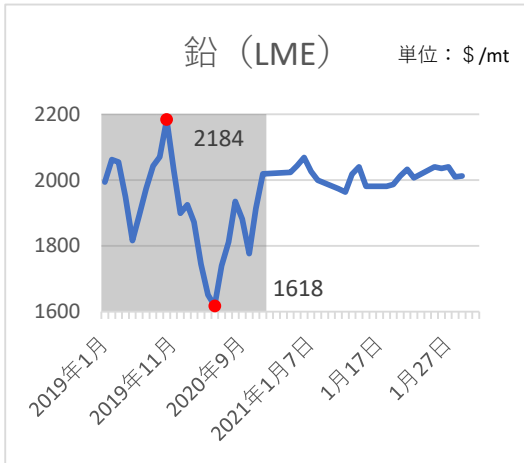
(一社)日本電線工業会によると、2020年12月の銅電線出荷は前年同月2019年12月比5.3%減の5.4万t(推定)と15か月連続で減少した。うち内需は前年同月比3.6%減の5.3万tで11か月連続の減少、輸出は51.3%減の1,000tで2か月ぶりの減少。内需の部門別では、電力が2か月連続、電気機械が4か月連続、自動車が3か月連続の増加、通信が2か月ぶり、建設・電販が11か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年12月の伸銅品生産は前年同月2019年12月比2.3%減の5.8万t(速報)と25か月連続の減少となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比8.1%増で3か月連続の増加。自動車端子向けの黄銅条は4.0%増で2か月連続の増加。黄銅棒は5.7%減で17か月連続の減少。コネクタ向けの青銅板条は21.3%増で3か月連続の増加。エアコン向けの銅管は18.1%減で11か月連続の減少となった。

鉛

【海外】

1. 価格推移



- 前月から引き続き \$2,000 近辺を推移

(2019年1月～2020年12月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の1月20日発表によると、2020年1～11月の世界の鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～11月の世界の鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～11月 実績	2019年1～11月 実績	増減率	2020年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	4,128	4,285	-3.7%	4,501
地金生産	10,656	11,088	-3.9%	11,661
地金消費	10,489	11,094	-5.5%	11,385
需給バランス	+167	-6		+276

(うち、中国の鉛需給実績)

	2020年1～11月 実績	2019年1～11月 実績	増減率
鉱石生産	1,797	1,806	-0.5%
精鉱輸入	697	864	-19.3%
地金生産	4,382	4,466	-1.9%
地金輸入	31	115	-73.0%
地金消費	4,444	4,496	-1.1%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

1月4日	1月7日	1月18日	1月26日
267	273	270	273

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年12月分=令和2年12月分)

	2020年12月	2020年11月比	2019年12月比
生産	17,772 t	+11.0%	+6.8%
出荷	17,280 t	-4.5%	+3.6%
在庫	17,864 t	+2.3%	-3.8%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は3か月ぶりの増加となった。出荷は輸出の減少により前月比は2か月ぶりの減少、前年同月比は輸出の増加により2か月連続の増加となった。在庫は前月比は増加、前年同月比は減少。前年同月比は2か月連続の減少となった。

3. 需要部門動向

11月の自動車生産台数は前年同月比2.8%減の78.2万台で、2か月ぶりの減少となった。また、二輪車生産台数は前年同月比5.1%減の4.9万台で、10か月連続の減少となった。

(一社)電池工業会によると、11月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、二輪車用を合わせた総合計で224.7万個(前年同月比1.0%減)と2か月ぶりに減少、自動車用以外の鉛蓄電池は45.6万個(5.3%増)と2か月連続で増加した。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は270.3万個(増減なし)となった。

鉛関連製品生産統計(2020年11月分=令和2年11月分)

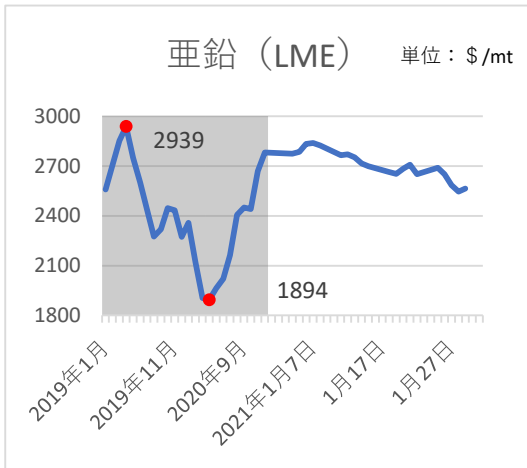
	2020年11月	2020年10月比	2019年11月比
自動車	782,237台	-6.7%	-2.8%
自動車用鉛蓄電池(鉛量 t)	17,155 t	-1.3%	+1.7%

(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査

亜鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ 中旬までは \$ 2,800 近辺 から \$ 2,700 近辺へ軟調に推移
- ・ 月末は株式市場下落の景気懸念とドル高で下落

(2019年1月～2020年12月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会 (ILZSG) の 1 月 20 日発表によると、2020 年 1～11 月の世界の亜鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～11月の世界の亜鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～11月 実績	2019年1～11月 実績	増減率	2020年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	11,110	11,747	-5.4%	12,329
地金生産	12,388	12,258	+1.1%	13,597
地金消費	11,919	12,488	-4.6%	12,977
需給バランス	+469	-230		+620

(うち、中国の亜鉛需給実績)

	2020年1～11月 実績	2019年1～11月 実績	増減率
鉱石生産	3,807	3,902	-2.4%
精鉱輸入	1,657	1,351	+22.7%
地金生産	5,707	5,568	+2.5%
地金輸入	456	498	-8.4%
地金消費	6,052	5,985	+1.1%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

3. 供給障害

◆ トレバリ・マイニング、カリブー亜鉛鉱山の操業を再開(カナダ)

トレバリ・マイニングは1月15日、採算の悪化により操業を停止していたニューブランズウィック州のカリブー亜鉛鉱山の操業を再開することを発表した。カリブー亜鉛鉱山は、COVID-19 感染拡大による亜鉛価格の低迷などによって採算が悪化し、2020年3月より一時的に操業を停止していた。同社は、操業体制の改善やコスト削減を行い、亜鉛市場も回復したことから操業再開が可能になったとし、2021年2月初旬より操業を再開し、3月末までに出荷を開始するとしている。同鉱山の2021年生産計画量は、亜鉛2.7~2.9万t、鉛1.0万t、銀18~20t。

◆ VZI、ガムスベルグ亜鉛鉱山の操業を再開(南アフリカ)

ベダント(英)子会社のベダント・ジンク・インターナショナル(南ア)は1月16日、落盤事故の発生を受けて操業を停止していたガムスベルグ亜鉛鉱山(南ア)の操業を再開したことを発表した。ガムスベルグ亜鉛鉱山では、11月17日に発生した落盤事故により10名の作業員が閉じ込められ、操業を停止。その内、8名は救出、1名の死亡が確認され、残り1名の捜索を続けているとしている。なお、再開した操業の規模は発表されていない。ガムスベルグ亜鉛鉱山は2019年初頭に操業を開始、年間25万t(物量ベース)の亜鉛精鉱の生産能力を持っている。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

1月4日	1月7日	1月13日	1月18日	1月21日	1月26日
334	346	340	328	331	328

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年12月分=令和2年12月分)

	2020年12月	2020年11月比	2019年12月比
生産	47,439 t	+1.9%	-0.5%
出荷	47,003 t	+4.1%	+6.9%
在庫	66,429 t	-2.4%	-5.2%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が5か月連続の増加、前年同月比は2か月ぶりの減少となった。出荷は輸出の増加により前月比は2か月ぶりの増加、前年同月比は3か月連続の増加となった。在庫は前月比、前年同月比ともに減少。前年同月比は16か月ぶりの

減少となった。

3. 需要部門動向

11月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比7.8%減の71.7万tで、14か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年11月の伸銅品生産は前年同月比1.4%減の60,801t(確報値)で、24か月連続の減少となった。黄銅製品では、黄銅条が1.5%増の7,957tで22か月ぶりの増加。黄銅棒が5.8%減の13,712tで10か月連続の減少となった。

亜鉛関連製品生産統計(2020年11月分=令和2年11月分)

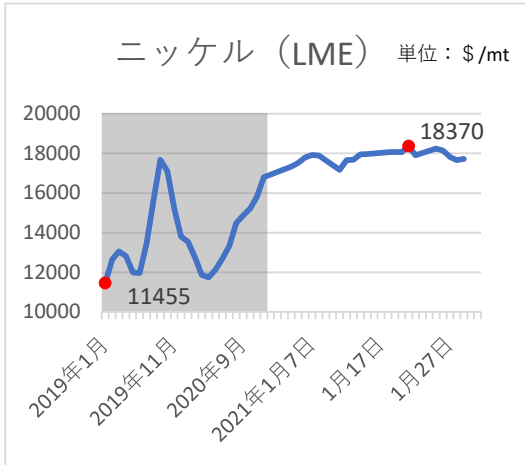
	2020年11月	2020年10月比	2019年11月比
亜鉛めっき鋼板	717千 t	-0.3%	-7.8%
黄銅製品	24,240 t	+3.2%	-4.6%
亜鉛ダイカスト	1,460 t	+14.9%	+4.9%
酸化亜鉛(亜鉛華)	4,805 t	-8.0%	-8.6%

(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査

ニッケル

【海外】

1. 価格推移



- ・ 前月から引き続き \$ 17,000 ~ \$ 18,000 近辺を推移
- ・ 1月21日は2019年9月以来の高値となる \$ 18,370

(2019年1月~2020年12月の値は月平均)

2. 需給動向

国際ニッケル研究会 (INSG) の 1 月 21 日発表によると、2020 年 1 ~ 11 月の世界のニッケル需給実績は以下の通りだった。

<2020年1~11月の世界のニッケル需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1~11月 実績	2019年1~11月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	2,158	2,331	-7.4%	2,352
地金生産	2,227	2,172	+2.5%	2,436
地金消費	2,118	2,210	-4.2%	2,318
需給バランス	+110	-38		+117

(うち、中国のニッケル需給実績)

	2020年1~11月 実績	2019年1~11月 実績	増減率
鉱石生産	95	96	-1.1%
地金生産	660	740	-10.9%
地金消費	1,238	1,216	+1.8%

(出典) 国際ニッケル研究会

【国内】

1. メタルニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年12月分=令和2年12月分)

	2020年12月	2020年11月比	2019年12月比
生産	4,033 t	+2.9%	-23.2%
出荷	4,682 t	-12.9%	-2.8%
在庫	3,664 t	-15.0%	-47.1%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が4か月ぶりの増加、前年同月比は4か月連続の減少。出荷は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は4か月ぶりの減少。出荷の内訳は特殊鋼向けが前年同月比17.8%減で8か月連続の減少となった。在庫は前月比が4か月連続の減少、前年同月比は3か月連続の減少となった。

2. フェロニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年12月分=令和2年12月分)

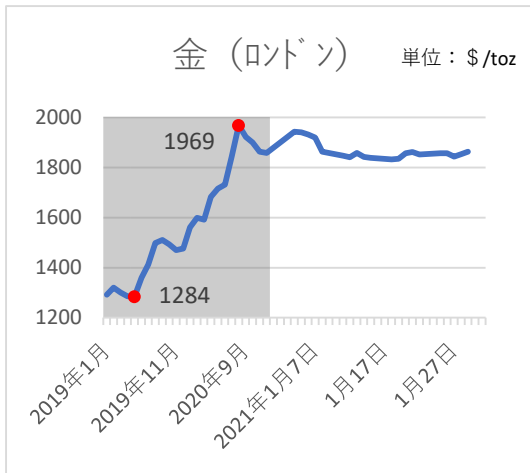
	2020年12月	2020年11月比	2019年12月比
生産	3,338 t	+8.6%	-18.4%
出荷	2,997 t	-41.8%	-26.5%
在庫	5,080 t	+7.2%	-28.6%

(出典)日本鉱業協会受払(ニッケル含有量ベース推計値)

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は10か月連続の減少。出荷は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は12か月連続の減少。在庫は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は3か月連続の減少となった。

金

【海外】 価格推移



- ・ 米新政権の経済対策による景気回復期待によって上旬は下落
- ・ その後は\$1,800～\$1,900を推移

(2019年1月～2020年12月の値は月平均)

【国内】

1. 建値推移(円/g)

1月4日	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日	1月12日	1月13日	1月14日
6,375	6,453	6,470	6,393	6,423	6,203	6,212	6,207
1月15日	1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月25日	1月26日
6,207	6,104	6,174	6,190	6,248	6,242	6,224	6,212
1月27日	1月28日	1月29日					
6,189	6,186	6,221					

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2020年12月分=令和2年12月分)

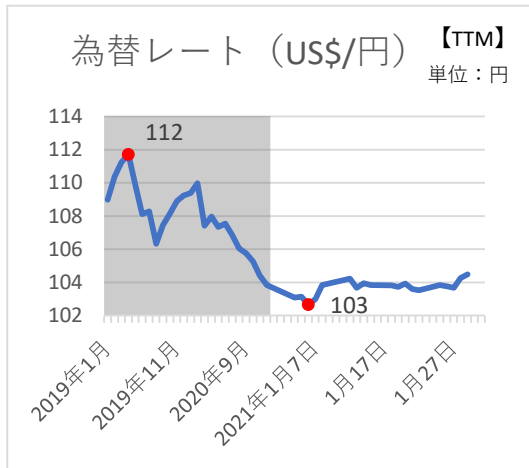
	2020年12月	2020年11月比	2019年12月比
生産	8,595kg	-1.1%	-22.9%
出荷	8,519kg	-0.3%	-11.0%
在庫	3,970kg	+2.0%	-29.6%

(出典)経済産業省生産動態統計調査

生産は前月比、前年同月比ともに3か月連続の減少となった。出荷は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は3か月連続の減少となった。在庫は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は9か月連続の減少となった。

為替相場

為替相場推移



(2019年1月～2020年12月の値は月平均)

- ・ 米新政権の国債発行を見越して、上旬は\$1=104円近辺に上昇
- ・ 月末は株式市場の下落によるリスクオフで上昇